授業科目	投映法特論	担当教員	髙橋　　昇
展開方法	講　義	単 位 数	2単位　選択	開設時期	前期（集中）

【授業目標】

臨床心理検査はクライエント理解のための、心理士の大きな、そして唯一の道具であるともいえる。その使い方によっては人を深く理解するための道具となり、反対に人を傷つける武器にもなる。投映法はその中でも人の心深くまで分け入ることができるものであり、習得は困難といわれる。それらの技法の理解を目指し、より臨床的で実践的なアセスメント法を身につけることが本授業の目的である。投映法の中でも代表的な描画法、SCT などを概観して、最終的にはロールシャッハ法の理解と技法習得を目指したい。

【授業方法】

講義と演習を併用しながら進めたい。心理検査はまず、自らが被験者となって受けてみることが重要であり、そこから検査自体の問題や心の動きを知ることができる。また、なぜそのような解釈にたどり着くかについての理解も深まるものである。そして病理群を含む様々な人の結果について講義をし、より実践に近い授業を行っていきたい。

【授業計画】

1．本講義の内容についての説明
2．心の「診断」を「理解」と読み替えること
3．SCT を通して自分の心の表れを知る
4．バウムテスト実習とその意味
5．事例を通した理解
6．風景構成法実習とその意味
7．事例を通した理解
8．ロールシャッハ法概説と実施にあたって
9．実施上の問題とプロトコルについて
10．ロールシャッハ法のスコアリング
11．形式分析
12．継列分析
13．考察と所見
14．事例を通した理解
15．まとめ

【評価方法】

平素の授業態度とレポート提出により、成績評価を行う。授業に支障を来すので、原則的に遅刻、欠席は認めない。

【教科書・参考書】

教 科 書　臨床投映法入門　　池田豊應　編　　ナカニシヤ出版
参 考 書　実践ロールシャッハ法　　森田美弥子　等著　　ナカニシヤ出版

【学生に期待すること】

ロールシャッハ法は一人前になるのに何年もかかるといわれ、職人技を身につけるようなものである。しかしそれだけの魅力と意味を秘めている。それを信じてついてきていただきたい。この授業は予備知識なしの体験が大事なので、予習の必要はない。その分、体験の後は復習をしっかりやらないとついて行けないと思ってほしい。